

国際

こだいら



2008年
No.54

Kodaira International Friendship Association News



国際交流で楽しいひととき

新年交流会

日本も国際化が進み、小平に住む外国人も多くなりました。1月12日（土）午後6時から7時半まで、ルネこだいらレセプションホールで新年交流会が開かれました。この日は、あいにくの天候でしたが、会場は80人を越える人が集まり、とても明るく華やいていました。市長の挨拶、乾杯の後、参加者は各テーブルに用意された飲み物や料理を楽しみながら、おしゃべりをしていました。顔みしりの人、初めて会う人、1年ぶりの人が「ワイワイ、ガヤガヤ、ムシャムシャ、ゴクゴク」その様子から、国が違っても世界は1つなんだという事を感じました。来ていた中国の男の子に何が好きか聞くと、「やきそば」。アメリカの女性は「天プラ」と言っていました。そして恒例の着物を着てうれしそうな外国人の整列の撮影の後、待ってましたのタイミングで、“KIYOMI & KANAKO” オリエンタルピーナスによるアラビア舞踊が始まりました。鮮やかな衣裳をまとい、おへそを出し、腰をふりながら登場した11人の美女。参加者は食事の

手も、おしゃべりの口も止め、すっかり美女達の虜になっていました。ほろ酔い気分と一緒に踊りだす人もいました。それはそれは盛り上がった所で新年会はお開きになりました。また明日から、それぞれの道に進む皆ですが、つらい時、日本にも温かい場所がある事を思って今年も、頑張ってください。



平成20年度は 次のような事業を行います

I 国際理解及び国際親善の普及事業

国際こどもクラブ（2期2クラス）、日本語会話教室、英会話教室（レベル別クラス、シニア英会話）、外国語会話教室、国際交流芸術展

II 地域における友好交流事業

国際交流フェスティバル、国際交流パーティ、ホームビジット、バスハイク、ひな祭り等

III 地域や日本文化並びに外国都市や外国文化の紹介事業

世界の料理紹介、世界の文化紹介、外国人のための茶道入門

IV 国際交流情報の収集及び地域への提供事業

機関紙（年3回）・情報紙（年10回）の発行、情報提供コーナーの運営、電子情報の発信

V その他協会目的達成のために必要な事業

ボランティア活動の推進、新年交流会、協会PR活動等の推進

平成20年度収支予算（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）

○収入の部

（単位：千円）

科目	予算額
賛助会費収入	1,380
補助金収入（市補助金等）	14,650
寄附金収入	1
積立金繰入	1,500
事業収入	6,484
雑収入（預金利子等）	6
前年度繰越金	2,076
収入合計	26,097

○支出の部

科目	予算額
事業費	11,026
国際理解及び国際親善の普及事業	6,088
地域における友好交流事業	1,505
地域や日本文化並びに外国都市や外国文化の紹介事業	612
国際交流情報の収集及び地域への提供事業	2,317
その他協会目的達成事業	504
管理費（管理運営費）	14,520
積立金	1
予備費	550
支出合計	26,097

外国人のためのいけばな入門



12月1日より2月23日まで(全10回) NPO国際交流さくら会の方々のご指導のもと、いけばな入門講座が開かれました。参加者は、中国・アメリカ・台湾・韓国・ハンガリー・パキスタン・ペルー出身の12人。取材にお邪魔したこの日は、会長の花田美津江さんが丁寧にご指導されていました。

花材は、主材にこぶしの花、そして金魚草と麦の3種類。こぶしの花は、つぼみをつけた枝を四方八方にのばしている物がほとんど…この自由にのびた枝の流れを生かしながら、小さな剣山に斜めにいける事に、皆さん難儀していました。それが上手に出来たら、金魚草と麦に長短をつけるなどして、器に奥行が加えられていきました。

枝ぶりや花つきなどに多少の違いはあるにしても同じ花材から、こんなにも個性が際立った様々な作品が出来るものなのだなあと感じました。

「お国でもいけばなはありますか?」と質問したところ、アジア圏の方々は、あると答えていました。また剣山を用いてのいけばなは韓国でもあるそうですが、オア

シスも一緒に用いたりするそうです。他の国々でもお花を花瓶などに飾る習慣はあるそうですが、アジア圏も含めどの国も、花材を多く用いての“豪華さ”が評価されるものだそうです。

日本のいけばなの真髄の“花を生かしてあげる”ということは、花材が少ない分難しいけれど、日本の精神の奥深さを感じられて、とても素晴らしい事だと皆さんが言っていました。あと、正座ではなくイスでの指導が嬉しいとも話してくれました。



ひな祭りの集い



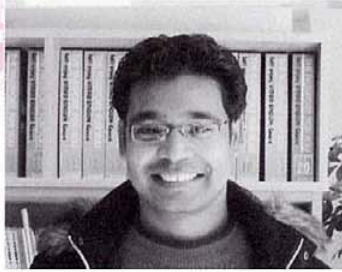
3月3日を「ももの節句」ともいうのはなぜか、知っていますか?昔のこよみは現在の4月ごろにあたり桃の花の咲く季節だったからです。3月1日(土)午後1時から3時すぎまで学園西町地域センターで「ひな祭りの集い」が開かれました。会場への通路には春らしい沢山の生け花が飾られていました。中に入るとつるしびな、正面には7段かざりの木目込み人形びなが、広い和室ですが、大勢の人が、すでに集まって、折り紙を折ったり甘酒やジュース、お菓子



を食べながら楽しんでいました。外国人に甘酒は好きですかと聞くと、「好きけどお酒なので今日は飲まない」、「イスラムはお酒はダメ」と。ビールや日本酒と同じイメージを持っているようでした。開会のあいさつ、着付け体験インタビューの後、琴の演奏が始まりました。琴は外国人も体験できました。ひな祭りの歌をみんなで歌った後、いよいよ日本舞踊です。♪お江戸日本橋～♪から始まり最後は全員で花笠音頭を3回も踊っちゃいました。着物を着ていた外国人は“暑い暑い、素晴らしい”と楽しんでいました。身も心もポカポカになった所で閉会の時間になりました。今日の感想を聞くと、「日本の伝統文化」を学んだと喜んでいました。又、ブータンから来たJICAの研修員が「日本は仏教の側面もあり、興味深い。こんな温かいもてなしを受けた事は人生でなかった。忘れない。」と言っていたのが印象的でした。短い時間でありながら、本当にこの日は盛り沢山の“和”の世界を楽しんでもらえたと実感し、改めて日本の素晴らしさを感じました。

インタビュー インド

インドから来日し、現在早稲田大学4年生で日本の国際政治を専攻しているブラサド・プレシャント・クマルさんにお話を伺いました。今回は久々に男性の学生さんの登場です。



◎どこのご出身ですか？

ニューデリーです。

◎日本を知ったきっかけは何ですか？

歴史と文化を勉強したことあたりからです。特に黒澤明監督の「七人の侍」は印象的でした。

◎インドでの日本のイメージはいかがですか？

とても良いです。日本人は親切だと思います。インドの人の人気調査で日本はNo.1なのです！

◎ヒンズー教徒の生活について少し教えてください。

ヒンズー教徒は牛肉を食べません。なぜかという、牛は、母の象徴だからです。人によって違いはありますが、鶏肉を食べる機会が多いです。

◎日本のカレーライスはどう思いますか？

甘いですね。インドのカレーは、もっと辛くておいしいです。甘さの点でいうと、コーヒーと紅茶の飲み方が違います。インドでは甘いコーヒーと紅茶を飲み、日本人のようにストレートで飲む事はありません。

◎インドの言葉は何語ですか？

母国語はヒンディー語です。主にインド北部、インド全体の70%の人が話す言葉です。残り30%の南インドの人はいろんな違う言葉を話します。英語は大きな街で使われ、とりわけ仕事で用います。会社と学校では、英語が重視されています。

◎インドはIT大国と聞いています。皆、パソコンや携帯を持っているのですか？

一般の人は持っていません。持っているのは、エンジニアか興味のある人、又は仕事に使う人です。

◎インドは映画鑑賞率世界No.1という話ですが、映画館も沢山ありますか？

はい、あります。インド人俳優で、日本で人気があるのは、レズニカントです。

◎有名なガンジス川について教えてください。

ヒマラヤから流れる、大きくて長い川です。ヒンズー教徒にとって、とても大切な聖なる意味を持つ川です。この川に沿って、神話や伝説が沢山作られました。

◎特に日本人にアピールしたいものはありますか？

インドは文明の発祥の地であり、海外の人にとってはミステリアスな国と考えられているようです。これに加え、例えば、インドと日本の宗教や思想、文化や歴史の違いなどをもっと知ってもらいたいです。

◎将来は何になりたいですか？

日本の国際関係を教える先生になりたいです。

◎最後に日本人へメッセージをお願いします。

今、日本とインドは経済関係がとても良好です。アジアで最強の国は日本だと思います。この経済関係がもっと良くなることを願っています。

約1時間のインタビューをととても楽しんでくださいました。生け花をされている奥様も、親日家の方です。ご夫婦で日本を大いに楽しんで、沢山の体験をインドへのおみやげにしてください。執筆中の卒論が無事仕上がることをお祈りしています。ありがとうございました。

中国茶茶会

KIFAの数ある講座の中でも大好評で、もうすっかりお馴染みになりつつある、木村秋美先生による、「中国茶茶会」が1月26日(土)2時～5時半、時間を延長して行われました。

先生がこの日のために用意して下さった選りすぐりのお茶は4種。中でも、おめでたい時に使われる、工芸茶の一種で手毬のような形をした「双龍戲鳳」の手の込んだ細工には、どのテーブルからも、「わ、すごい!!」「まあ、きれい!!」と歓声がわきました。

1煎目と2煎目、又、器によっても微妙に違ってくる中国茶独自のほのかな甘い香りに浸りながら、交代で練習を重ねるうちに、だんだんと手馴れてきて、リラックスして自分なりのおもてなしの中国茶をふるまえるようになりました。

台湾のお茶会では、基本的に4人一組で、それぞれが、自分の大好きなお茶を持ち寄り、皆で味わい、とても幸せな気分になってもらうことが何よりも目的なのだそうです。

早くも次回はいつ?との質問がありました。今度は連休明け頃に連続講座が開かれるようです。

日々時間に追われる中、中国茶にうっとりとして、まるで台湾へ小旅行をしたような、満ち足りた雰囲気、是非一度お試しあれ!



もちつき大会

“お天気になれ”と願っていた、もちつき大会当日の1月19日(土)は、カラッとした冬晴れになりました。「小平国際学生舎留学生寮」とKIFAが共催するこの行事。会場の国際交流プラザには、受付開始前からぞくぞくと人が集まりはじめ、200皿分のお餅が、1時間もしないうちに売切れてしまいました。

この他にも、「きき酒コーナー」や手作り竹馬等が用意されていて、あちらこちらでみんながお正月ムードを楽しんでいました。

編集後記

今年は何回かの降雪に見舞われ、寒さの厳しい「冬らしい冬」となりました。そんな中、道端で懸命に咲いている小さな花を見つけたりすると、「頑張れ、負けるな!ありがとね。」と思わず声をかけていました。これからのよい春本番を迎えます。次々に繰り広げられる、花達のステージを楽しみましょう! (K.S.)

発行日 平成20年4月1日

発行 小平市国際交流協会 編集 機関紙グループ

小平市学園西町2-12-22 学園西町地域センター3階
〒187-0045 ☎042-342-4488/FAX.042-347-3003

小平市国際交流協会のホームページもご利用ください

E-mail : info@kifa-tokyo.jp Homepage URL http://www.kifa-tokyo.jp/